



クローバー

2016. 8

第35号

～ 地域を支える、生命を守る、未来を育む医療を目指して ～



人は石垣 人は城

院長 勝又 宇一郎

自治体立優良病院総務大臣表彰を受賞しました。平成5年にも一度受賞しており、それから23年目、2度目の快挙となります。

先日、新聞3社（胆江日日、岩手日日、岩手日報）から取材を受けました。

Q. 今の気持ちは？

大変うれしく、誇らしく思います。職員個々の日夜の頑張りがあってこそその受賞だと思っています。ハードよりソフト、「人は石垣 人は城」、何より人・人材が大事ですと答えました。

Q. 経営努力は？

国/厚労省の方針・診療報酬改定などに合わせて、それなりに細かな経営努力はしていますが、それよりなにより、困っている人は何でも引き受けるという姿勢、そういう病院の伝統/文化が健全経営の一番の要因であると考えています。

これからも、世のため人のために、住民が安心して暮らすことができるよう、職員一同、心一つにして頑張っていきたい、胆沢病院のすばらしい文化伝統を引き継いでいきたいと考えています。皆様からの応援・ご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

岩手県立胆沢病院の基本理念

<基本理念>

私たちは、地域の人々の健康と命を守るため、愛を持って地域医療に貢献します

<行動指針>

- 1) 患者さんと家族、私たちとの協働医療（専門性を結集した多職種による、患者参加型のチーム医療）
- 2) 患者さんの背景・価値観に配慮した医療
- 3) 患者さんが安心できる、良質で安全な医療
- 4) 地域の医療・福祉・行政との連携と機能分担
- 5) 次の世代を担う優れた医療人の育成

<病院運営方針>

- 1) 救急医療を含む急性期医療
胆江保健医療圏の基幹病院として、24時間対応の救急医療など、圏域の急性期医療、高度・専門医療を担います。
- 2) がん医療
地域がん診療連携拠点病院として、手術・化学療法・放射線治療・緩和ケアなど専門的ながん医療の提供や、がん患者に対する相談支援・情報提供を行います。
- 3) 地域医療支援
地域医療支援病院として、紹介・逆紹介の推進、地域医療機関との共同診療、地域の医療従事者・地域住民に対する研修・教育を行います。
- 4) 災害医療
地域災害拠点病院として、災害時の傷病者の受け入れや地域医療機関への支援、DMATチームの派遣を行います。
- 5) 臨床研修、スタッフ教育
臨床研修指定病院・各種学会認定研修施設として、次の世代を担う医療従事者を育成するとともに、病院スタッフの研鑽に努めます。

上記5項目の実践・充実のため、誇りを持てる職場づくりと健全な病院運営に努めます

2016 熊本地震 胆沢病院DMAT 活動報告

災害医療科長（日本DMAT隊員 統括DMAT） 忠地 一輝

4月16日出動
4月20日帰還



4月17日熊本に到着 余震続く中の医療支援活動

1. はじめに

当院は地域災害拠点病院に指定されており、災害医療支援チーム（Disaster Medical Assistant Team：以下DMAT）を編成することが義務づけられております。当院基本理念にも災害医療への取り組みとDMATチームの派遣を掲げております。

DMATは医師、看護師、業務調整員を構成員とし、各職種からなる4-6名で1チームを編成します（業務調整員は事務、診療放射線技師、臨床工学技士、薬剤師等多数の職種からなります。災害現場では最も重要な役割を担う職種といっても過言ではありません）。当院には現在、日本DMAT隊員16人（医師5人、看護師7人、業務調整員4人）、岩手DMAT隊員3人（看護師2人、業務調整員1人）の計19人がおりますが、院内勤務状況や家庭状況などにより常に全ての人が出動できる状況ではありません。そんな中、今回熊本地震に出動する機会を与えていただきましたのでご報告申し上げます。

2. 熊本地震について

4月14日（木）21時26分、熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生、益城町で震度7を観測（その後「前震」と定義）。4月16日（土）深夜1時25分、同地方を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、西原町と益城町で震度7を観測。この地震は「本震」と定義され、「本震」は「前震」の16倍の規模（阪神淡路大震災と同規模）であったと分析されました。

3. 出動まで

DMATの出動命令は厚生労働省DMAT事務局からメールで来ます。震度7を観測する地震が起きた際には「自動待機基準」となり隊員は出動に備える必要があります。今回の「前震」の時にも自動待機命令が出ておりました。さらに4月16日3時14分に近隣のDMATには派遣命令が、全国のDMATには再度待機命令が出ました。

当院では、朝4時過ぎに院内DMAT隊員にメールを送り、医師1名、看護師3名、業務調整員1名の計5名が出動可能と判断。他の隊員を含め計10名が病院に集合し、出動に必要な資機材（医療器具、パソコン、プリンター、衛星携帯電話など）の準備を行い出動に備えました。



待機した隊員は、熊本に出発した隊員を支援するため、情報収集・連絡調整・物資支援の手配など、隊員が帰還するまで後方支援を行いました。

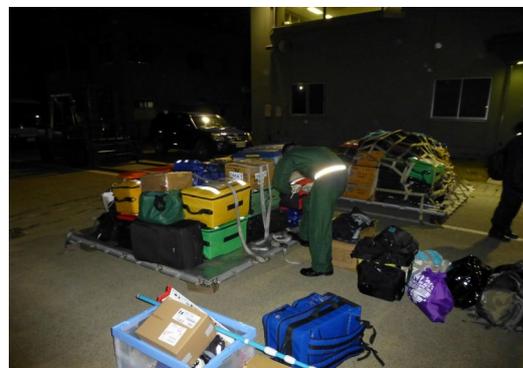
4. いよいよ出動

4月16日16時過ぎ、東北地区のDMATに派遣要請が出ました。即座に院長に出動許可をとり、当院のDMAT用緊急車両で松島基地へ出動しました。

5. 松島基地から福岡築城基地を経て活動拠点本部へ

松島基地に参集した東北DMATは計8チーム。東北大学病院、大崎市民病院、仙台医療センター、東北労災病院（以上宮城県）、福島県立医大病院、山形県立中央病院、岩手医科大学付属病院および当院でした。

各チームの医療資機材を航空自衛隊機C-1に搬入、我々も同機に搭乗。松島基地を20時過ぎに飛び立ったC-1は福岡築城基地に22時頃着陸。築城基地から自衛隊の運転するマイクロバスに乗り、陸路で道なき道を走り大分県竹田市に入り、夜中の3時頃より活動を開始しました。



航空自衛隊機 C-1に搬入する医療資機材



航空自衛隊機 C-1に搭乗するDMAT隊員



航空自衛隊機 C-1機内

6. 胆沢病院DMATの活動内容① ～産山村調査～



産山村役場前にて

東北8チームは大分県県境に位置する竹田市から熊本県に入り、阿蘇地域で活動することが決定しました。熊本市と阿蘇市を結ぶ幹線道路が遮断され、大分側から阿蘇に向かう必要があったためです。

胆沢DMATの任務は熊本県産山村の医療状況調査および阿蘇温泉病院調査に決定。産山村は人口1,700人程の村で、農家が多く自給自足が可能のため食事は問題なくできておりました。消防団が各家庭を巡回し、既に全ての村民の安否は確認済みでした。診療所が各家庭から15分以内の所に位置しており村民の健康状態も問題ないと報告を受け、産山村調査を終了しました。しかしながら、村内に避難所が4箇所できていたため、これらの調査をすべきであったと反省いたしました。

7. 胆沢病院DMATの活動内容② ～阿蘇温泉病院 病院支援～

その後阿蘇温泉病院に入りました。入院患者250人（内 維持血液透析患者 40人）、併設されている介護老人保健施設の入所者120人、外来血液透析患者70人とかなりの規模の病院施設でした。4月16日の日中に、入院患者210人を耐震上安全であった老人保健施設新館に避難させていました（スタッフの人力のみで移動!!）。水は消火栓から誘導、老健施設は発電車により発電中というライフラインの状況でした。

病院スタッフも被災者であり、避難所・車中泊から出勤している方、病院に寝泊まりしている方が多数いらっしゃいました。スタッフの負担を減らすために、DMATの立場として、患者を何人か転院させるか、あるいは病院避難（患者さん全てを他の医療施設に一旦移す事）が必要であると判断しました。このことについて阿蘇温泉病院の院長としばらく話し合いましたが、院長先生はこちらの考えを理解した上で以下のようにおっしゃいました。

「言われていることはわかる。このままだと疲弊してしまうことも理解できる。しかし転院させてもその場所に家族が見舞いに行くこともできない、万が一亡くなっても迎えに行くこともできないだろう。この地域の人たちばかりだから・・・できることなら病院に留まりたい。看護師と臨床工学技士を派遣して手伝って欲しい」

この言葉をうけ、病院避難ではなく病院支援に方針転換しました。DMATを追加派遣してもらい、隊員は来院した急性期患者の診察ならびに他院への患者搬送、病院内における患者移送、病棟看護師の手伝い（清拭など）、透析室におけるバイタルチェック等々を行いました。



阿蘇温泉病院の院長先生とスタッフを囲んで



4月20日、胆沢病院から阿蘇温泉病院への物資支援を行う。現地で足りていないものをトラックに搬入して輸送。熊本からの帰りには、医療廃棄物を持ち帰ることで同病院の負担を軽減した。

阿蘇温泉病院では倒壊の恐れがないと判断された本病棟へ患者さんを搬送することが計画されました。スタッフ、DMATの力では対応困難であったため、自衛隊に協力を依頼。自衛隊の担当者はなんと奥州市出身の隊員であり、人のつながりを改めて実感いたしました。搬送日には30人の自衛隊隊員が病院にきて速やかにミッションは遂行されたそうです。このミッションの道筋をつけたところで胆沢DMAT隊員は3泊4日（1車中泊含む）の活動を終了し帰還いたしました。

た。また日本災害時透析医療協働支援チーム JHAT(Japan Hemodialysis Assistance Team in disaster)の関係者に連絡をとり、ボランティア派遣を依頼。2日後には臨床工学技士のボランティア2名が到着し仕事を開始し、その後も2週間程度ボランティア活動が続いたとお聞きしております。

胆沢病院からも阿蘇温泉病院への物資支援を行いました。現場で足りていないものを胆沢病院のスタッフに伝え、当院スタッフがそれに加えて医療用手袋、オムツ、口腔ケア物品、生理用品、乾電池などを送りました。物資を輸送したトラックは、阿蘇温泉病院で出た医療廃棄物を持ち帰ることで同院の負担を軽減しました。



4月20日に大分空港から伊丹空港を経て、花巻空港に到着。隊員たちは緊張から解放されホッとした表情を浮かべた。

8. 活動を終えて

災害時の問題として、被災した人、被災病院がヘルプの声をあげない限り支援が届かないことがあります。今回の阿蘇温泉病院も同様の状況になりつつありました。院長先生のお言葉がそれを物語っています。現場のスタッフの身体的、精神的バックアップがもっと速やかにできるよう今後1人のDMAT隊員として考えて参りたいと存じます。

出勤時は家族、院内スタッフはもちろんのこと地域の皆様にも励ましのお言葉をいただき我々の力となりました。心より感謝申し上げます。

「災害は忘れる前にやってくる」と最近は言われます。近年起きている地震、火山噴火、バス事故などは当地でも起こり得るものです。日頃から準備を行うとともに、万が一の時には速やかに活動を開始したいと考えております。今後も当院DMATの活動に対してご理解、ご指導を何卒よろしくお願いいたします。

〔注：災害は、地震・洪水といった自然災害以外にも、火事・工場事故・飛行機事故・鉄道事故・高速道路事故など多くの傷病者が出る可能性があるものも含まれます。〕



4月20日夕方、熊本地震被災地での活動を終え帰還。病院職員が胆沢病院DMATチームを出迎え、ねぎらいの花束を贈呈。下田副院長から「経験を職員に還元して今後の活動に役立ててほしい」とエールを送った。

胆沢病院6人目となる認定看護師が転入しました！

透析看護認定看護師の紹介



透析看護認定看護師

のなか としき

野中 俊樹

平成28年4月から胆沢病院に転勤となりました。「透析看護認定看護師」として透析室に勤務しております。

腎臓病の基本的なこと、食事内容を含めた生活習慣の改善の必要性、血糖コントロールの重要性、腎代替療法選択に関する説明などを実践していきたいと考えております。また、腎不全の憎悪により、シャントを作成する場合や透析導入などで患者さんが入院する場合は、シャントのしくみ、透析治療の必要性、透析治療のしくみ、透析治療を実施するうえでの自己管理について説明をさせていただきます。

患者さんや家族の方々に限らず健康な方々に対し病気に対する正しい知識を習得して頂くことで、生活習慣改善のきっかけとなるよう地域に発信していきたいと考えております。よろしくお願いたします。

休診のお知らせ

下記の期間、外来診療（全科）を休診し、当直医師による救急診療体制となります。

8月15日（月）

8月16日（火）



※救急のご紹介の際は、中央処置室にご連絡をお願いします。

第5回 医療情報コーナーイベントのご案内

抗がん剤治療中の下痢・便秘について

“がん”や医療に関する情報収集・発信の場として、玄関ホール内に「医療情報コーナー」を設置しています。

「医療情報コーナー」を広く市民の方々に知っていただく機会になるように月1回（第4火曜日）イベントを開催しております。

| | |
|------|-----------------------------|
| 日 時 | 平成28年8月23日（火） 9：30～11：30 |
| 場 所 | 胆沢病院玄関ホール内 「医療情報コーナー」 |
| 担 当 | がん化学療法看護認定看護師 |
| 申し込み | 不要 |
| 参加費用 | 無料 |

【お問い合わせ先】 担当：地域医療福祉連携室
電話：0197-24-4121（内線1065、1158）



岩手県立胆沢病院 地域医療福祉連携室

〒023-0864

岩手県奥州市水沢区字龍ヶ馬場61番地

TEL 0197-24-4121

FAX 0197-24-4180（紹介センター専用）

URL <http://www.isawa-hp.com/>